

京都企業のBSI値 10～12月期

## 国内景気は引き続き緩やかな拡大を持続 自社業況は弱含みながら上昇の見込み

本所は、10月下旬から12月上旬にかけて経営経済動向調査（10～12月期）を実施し、その調査結果をまとめた。この調査は、短期的な景気動向を把握するため四半期ごとに行っているもの。京都府内に本社、本店を持つ企業を調査対象とし、528社から回答を得た（回答率75.0%）。

今回は、2006年10～12月期の実績と2007年1～3月期、4～6月期の景気、業績見通しについて質問した。

### I 国内景気動向

2006年10～12月期は「上昇」とする企業32.0%と、「下降」とする企業8.6%、BSI値11.7（前期実績11.1）と緩やかに上昇。今後の2007年1～3月期はBSI値▲0.5、続く4～6月期は5.4と上昇基調を続ける見通しである。

### II 企業経営動向

#### 自社業況（総合判断）

2006年10～12月期は前期と比べて、BSI値9.8（前期実績▲2.7）と改善を見せた。今後の2007年1～3月期は▲6.3と停滞するものの、続く4～6月期は需要期入りもあり、1.1と再び改善に転じる見通しとなっている。

#### 1. 生産・売上高、工事施工高

2006年10～12月期は「増加」41.1%、「減少」16.6%、BSI値12.3（前期実績▲3.1）となり、需要期入りもあり増加した。今後の2007年1～3月期は▲8.4、4～6月期は1.5と増加に向かう見通しである。

#### 2. 製・商品・サービス・請負価格

2006年10～12月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設請負価格を総合的に見ると、「上昇」13.9%、「下降」11.9%、BSI値1.0（前期実績▲1.3）とやや上昇した。今後の2007年1～3月期は▲3.5、4～6月期は▲2.2と弱含みの見通しである。

#### 3. 経常利益

2006年10～12月期は需要期入りもあり、BSI値5.3（前期実績▲6.9）と改善を見せ、増益傾向に転じた。今後の2007年1～3月期は▲9.6と再び減益傾向となるが、4～6月期は▲1.5とやや持ち直し見通しとなっている。

#### 4. 所定外労働時間

2006年10～12月期はBSI値10.3（前期実績▲1.3）と増加した。今後の2007年1～3月期は▲3.4と減少し、4～6月期は▲1.3とやや増加の見通しである。

#### 5. 製・商品在庫

2006年10～12月期は「適正」とする企業が77.0%、「過剰」とする企業が19.0%、「不足」とする企業が3.9%、BSI値7.6（前期実績6.0）と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感がみられた。今後は2007年1～3月期は「適正」が84.3%、4～6月期は「適正」が88.2%と概ね適正水準で推移する見通しである。

#### 6. 資金繰り

2006年10～12月期は、「改善」とする企業が11.5%、「不変」とする企業が78.4%、「悪化」とする企業が10.1%、BSI値0.7（前期実績▲3.3）と改善に転じた。今後の2007年1～3月期は▲2.3と悪化するが、4～6月期は1.3と改善する見通しである。

### Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位に「受注・売上げ不振」（45.5%）、第2位の「過当競争」（34.5%）に続いて、第3位は「原材(燃)料高」（31.4%）となり、第4位「製・商品(請負)価格安」（24.8%）、第5位に「求人難」（18.4%）が挙げられた。

※自社業況（総合判断）は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

（注）BSI値とは、景気全般の見通しについて強気、弱気の度合を示すもので、プラスは「強気」「楽観」、マイナス（▲）は「弱気」「悲観」を意味する。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。